



運動会で楽しく交流 —今福ふれあい運動会—

今福ふれあい運動会が6月16日、今福保育所グラウンドで行われました。

世代間交流を目的に、今福公民館主催で毎年開催されています。

この日は、今福保育所園児やその保護者、今福町長寿会のメンバーなど約80人が参加し、ダンスや玉入れなどで楽しく交流しました。

今福町長寿会会長の田中一郎いちろうさんは、「園児と触れ合えて、楽しい運動会でした」と話していました。

まちの話題



市内各地で光の乱舞

5月末頃から6月中ごろにかけて、市内各地で多くのホタルが飛び交いました。

特に御厨町木場地区を流れる木場川には、市民や関西方面から訪れた民泊体験中の中学生など、多くの方がホタルを見に訪れました。

長年、木場川の自然を観察してきた大久保正基まさきさん（御厨・木場、76）は、「ホタルは、自然の残ったところで活動しています。来年も多くのホタルに飛んでほしいです」と話していました。



災害時の対応をより迅速に —川西会が災害支援活動協力の申し出—

ボランティアグループ川西会（緒方進代表）が6月7日に市役所を訪れ、災害支援活動における計画書を友広郁洋市長に手渡しました。

同会は、志佐川より西側にある建設業者で4年前に結成。河川の里親制度による維持管理や、小学校や公園の清掃・除草などの活動を実施しています。今回は、災害時の迅速な被災状況の把握や、円滑な災害対応の支援活動を申し出たものです。

計画書には、会員と賛助会員の9社約40人が24時間対応可能な連絡体制や、ブルドーザや高所作業車など約40種類の出動可能機材などが明記されています。

緒方代表は「職業を生かしたボランティアをと計画しました。官民一体となって活動をし、被害を最小限に抑えられればと思います」と話し、友広市長は「より迅速な対応が期待でき、大変心強く思います。今後は、市側も連携して災害に備えていきたいです」と話しました。

トイレ掃除で心も美しく

「日本を美しくする会 掃除に学ぶ会 第13回長崎年次大会 in 松浦」が6月10、11日、志佐中学校などで開催されました。

主催の松浦掃除に学ぶ会（吉永満也代表世話人）は、トイレ掃除を通して、人の役に立ち、出会いと感動の場とすることなどを目的として平成12年に結成。現在は約10人で毎月1回中央公園のトイレ掃除を行っています。

11日の掃除実習には、県内や九州内、志佐中生徒など約150人が参加。志佐中校舎の全トイレを8グループに分かれて、裸足でトイレに入り、タワシやスポンジなどを使って便器などを磨き上げました。

また文化会館では、五日市剛氏いつかいらつよしによる「ツキを呼ぶ魔法の言葉」と題した講演会が開催されました。



海のふるさと館で 水の大切さをPR

第48回水道週間（6月1日～7日）が始まった1日に、市水道課職員が海のふるさと館でPR活動を行いました。

この日は、水道課職員11人がうちわやティッシュ、花の種など200セットを訪れた人に配布。また、広報車で市内を回るなどして、水の大切さをPRしました。



保育所にヤギがやってきた！

5月26日、上志佐保育所（辻久敏所長）を3匹の親子ヤギが訪れ、園児たちと触れ合いました。

親子のきずなやヤギの成長の様子を知ってもらうことを目的に行われたもので、末吉富美子みみこさん（志佐・長野）の飼育する親子ヤギ3匹が同所を訪れたものです。

全園児30人は、ヤギを見ると大喜びで草を与えたり、子ヤギを抱きかかえたりしました。

また、園児みんなで生後約一か月の子ヤギ2匹に「メイ君」「アイちゃん」と命名。「やぎさんゆうびん」をみんなで歌った後、花束ならぬ草束を渡し、ヤギとの楽しいひとときを過ごしました。

ヤギを抱きかかえた松本りさちゃん（5歳）は「重かったけど温かかったです」と話してくれました。



柚木川内キャンプ場を美しく

松浦ロータリークラブ（岩藤一人会長）の会員が6月18日、柚木川内キャンプ場の清掃作業を行いました。

同会の社会奉仕活動の一環で、キャンプ場開き前に毎年行っているものです。

この日は、会員やその家族、市職員など約50人が、約2時間かけて草刈り機や鎌を使って草を刈ったり、バンガローを丁寧に拭いたりしました。

また、柚木川内地区の住民がキャンプ場までの道脇の草刈りも行い、キャンプ場の受け入れ準備が整いました。

海のふるさと館を美しくPR

松浦住まいづくり研究会（古本修司座長、22人）が6月13日、海のふるさと館前のバイパス沿いの除草作業を行いました。

海のふるさと館を美しくPRしようと、同館前のバイパス沿いに、昨年11月にポピーの種をまきました。この日は、現在満開になったポピーの周辺をより美しくしようと会員10人が、約1時間かけて草をとりました。

古本座長は「きれいに咲いたポピーを、海のふるさと館を訪れる人に楽しんでほしいです。今後も、松浦らしい景観を作るため、御厨地区に多く見られる林叢（生け垣）の研究や手入れ、市内のバリアフリーマップの作成などの活動を行っていきます」と話していました。



環境月間に苗木を配布

電源開発松浦火力発電所と九州電力松浦発電所が6月7日、松浦中央公園で苗木を配布しました。

環境月間の取り組みとして行われたもので、この日はマリーゴールド、ベンジャミン、ブルーサルビアなどの苗木10種類、合計400本を配布。法被姿の職員約20人は、訪れた約200人の市民に苗木を配布しました。

また、9日には職員がぎぎが浜海水浴場の清掃も行いました。



サークル「おばしゃま」が熱演

第6回上高野ミニ演芸会が5月28日、志佐町の上高野公民館で開かれました。

演芸会は、地区住民の交流を目的に、地区の女性7人からなるサークル「おばしゃま」（新見タカ代表）が毎年開催。今回は、地区住民や兵庫県から修学旅行で訪れた中学生など約90人が見守る中、地区住民らによる踊りやフラダンス、琴演奏などが披露されました。

また、サークル「おばしゃま」の民話劇では、松浦の民話「鬼の岩屋」を熱演しました。メンバーが、昨年12月から練習や小道具などの制作を始め、民話に登場する石盛山に実際に登るなどして作り上げた舞台。方言をふんだんに使った愉快的演技に、会場はにぎやかな笑い声でいっぱいになりました。



租税教室で税金について学ぶ

今年度の平戸税務署による租税教室が始まりました。

税金への意識を高めてもらおうと毎年同税務署管内の小・中学校、高校で開催されています。

6月13日には、御厨小の6年生53人が参加し、同税務署総務課の柳田信一主任が講師を務め開催。児童は8班に分かれクロスワードパズルに挑戦し、税金のしくみなどを学びました。

1組の福本望翔さんは「日本以外の国の税金制度のことや、税金がとても大切だということがわかりました」と話してくれました。